2020.7 No.204

平和文化

公益財団法人 広島平和文化センター　　題字　松井一實 会長

被爆75年にあたって ―財団が目指すもの

(公財)広島平和文化センター
会長　松井　一實

75年前、一発の原子爆弾により広島の街は一瞬にして廃墟（はいきょ）と化し、多くの人々の尊い命が奪われました。今日では、広島の街は見事な復興を遂げ、市民は豊かな暮らしができるようになりました。一方で、放射線の後障害などで今も苦しんでいる被爆者が数多くおられます。そして「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」と訴え続けながら、自らの体験や平和へのメッセージを若い世代へ語り継いでおられます。被爆者の平均年齢は83歳を超えており、被爆体験の継承を今後どのように進めていくかが大きな課題となりつつあります。

被爆体験の継承に尽力

このため、本財団では広島市と協働して被爆者のメッセージを次世代に継承するための様々な取組を実施しています。

平和記念資料館では、遺品だけでなく遺影や遺族の手記をあわせて展示することにより、御覧になる方が被爆者や遺族一人一人の苦しみ・悲しみに向き合えるようにしていることに加え、放射線による被害を展示することにより、核兵器の非人道性を訴えています。さらに、被爆者の体験や平和への思いを受け継ぎ、被爆者に代わってそれらを伝える被爆体験伝承者を育成し、国内だけでなく海外へも派遣しているほか、被爆者がその体験を語る被爆証言ビデオの収録や被爆体験記の収集についても、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館と連携しながら取り組んでいます。

今後とも、こうしたバーチャルな取組も充実させながら、次代を担う若い世代の人々にも被爆者のメッセージを受け止めていただけるよう、活動を進めていきたいと考えています。

市民社会の総意で核兵器廃絶を目指す

今、世界では、台頭している自国第一主義を始め、排他的・対立的な発想に基づく動きが国家間の緊張を高め、核兵器を巡る国際情勢は非常に不安定かつ不透明な状況です。現在、世界の核保有国は約1万3千発もの核兵器を保有し、意図せずとも事故、テロなどにより使用される可能性もあり、被爆者を含む市民の訴えとは程遠い状況と言わざるをえません。国家間における核抑止に依存する現状を打破し、核軍縮に向けて軌道修正するためには、各国の為政者が勇気を持って政策転換を行えるようにするための環境づくり、すなわち市民社会の共通の価値観の形成を進めることが必要です。

本財団は、全人類的な視野に立って平和思想の普及と国際相互理解・協力の増進を図り、世界平和の推進に寄与することを目的としています。また、私が会長を務め、本財団が事務局機能を担う平和首長会議は、市民の安心・安全な生活の確保こそが市民社会の共通の価値観（真なる願い）であることを踏まえ、その願いを叶（かな）えるという使命を担う自治体首長からなる超党派の組織であり、本財団と理念を共有するものです。

目　次

被爆75年 ― 財団が目指すもの …… 1
被爆75年 ― センターは各分野の事業を推進 …… 2
平和首長会議共同アピールの発出／
資料館本館常設展示資料の入れ替え／「新着資料展」／
資料展「この世界の(さらにいくつもの)片隅に　広島のすずさん展」 …… 3
被爆体験記「生死の運命」(山瀬潤子) …… 4
「ヒロシマ・ガイド」／ウェブ会議システムによる海外への被爆体験証言／
被爆体験証言者・伝承者の委嘱 …… 5
ヒロシマ ピース ボランティアのオンライン勉強会／
海外からの来訪者が発信するメッセージ …… 6
被爆体験記をさまざまな言語に翻訳して公開／
今年度ひろしま奨学金奨学生決定 …… 7
広島市外国人市民の生活相談コーナー／
外国人市民の日本語能力向上支援／
4月から「日本語教育コーディネーター」を配置 …… 8

（公財）広島平和文化センター　〒730-0811　広島市中区中島町１番２号
TEL（082）241-5246（代表）　FAX（082）542-7941　E-mail:p-soumu@pcf.city.hiroshima.jp
令和２年（2020 年）７月／年３回発行　［URL］http://www.pcf.city.hiroshima.jp/hpcf/
再生紙を使用しています

現在164の国・地域にある7,900を超える都市が加盟するこの平和首長会議というネットワークを活用して被爆の実相を伝え、被爆者の思いに共感する方々を増やすことにより、核兵器のない世界こそが人類が今後目指すべき平和な世界であることを世界の市民社会の総意とするための取組を進めています。市民社会の総意は、各国の為政者が核兵器廃絶に大きく歩みを進められるようにする環境づくりの要となるからです。

グテーレス国連事務総長は「核兵器の脅威を無くす唯一の方法は、核兵器の廃絶以外にはありません。」と訴えています。こうした志を同じくする国連とも連携を強め、平和首長会議の活動の更なる充実を図って参ります。

国際交流の促進と平和文化の醸成で平和な社会の実現へ

世界は今、新型コロナウイルス禍に見舞われ、国際的な移動が制限されるなど国際交流・協力活動も影響を受けています。しかし、お互いの宗教や異文化に対する相互理解を深めることが平和な世界を創るための第一歩であり、人々の間に平和文化を醸成することが平和な社会の確かな基盤造りとなると考えています。このため本財団では、国際平和文化都市としての特性を生かして、国際交流や相互協力、多文化共生に注力するとともに、外国人のための情報提供、生活相談を行うなど、国際交流の促進と市民の国際平和意識の高揚に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

「国際フェスタ 2019」の日本文化体験コーナーで生け花を楽しむ外国人参加者

こうした本財団の活動に対し、引き続き皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いします。

（令和2年7月）

被爆 75 年－センターは各分野の事業を推進

被爆 75 年の今年、（公財）広島平和文化センターは被爆体験の継承、平和の推進、国際交流・協力の促進の三つを柱として各種事業を行っています。

まず、被爆体験の継承のための取組についてですが、平和記念資料館は被爆者の遺品、被災写真、市民が描いた原爆の絵などの実物資料により、被爆の実相を伝えています。今年、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため約 3 か月間にわたり休館を余儀なくされましたが、この間、学芸員の解説動画を加えた展示紹介や、修学旅行生に体験を語る被爆者の動画などをホームページで公開。またウェブ会議システムを利用した海外向けの勉強会を開催するなど、インターネットを活用した発信に取り組みました。そして 6 月 1 日、密集や密接を避ける感染防止策を講じながら再開しました。資料館は開館 65 年を迎え、これまでの館のあゆみを振り返る企画展を開催します。

このほか、米国・ハワイでは初めてとなる原爆展を開催するなど、幅広い場面で被爆の実相とヒロシマの願いを伝えていきます。

また、追悼平和祈念館では、外国人の方に被爆体験記を母国語で読むことによって原爆被害の実相への理解を一層深めていただけるよう、「平和情報ネットワーク」で日本語のほか 27 の言語で被爆体験記を紹介しています。

次に、平和の推進についてです。財団内に事務局を置く平和首長会議では、被爆者の存命のうちに核兵器廃絶を実現したいと願い、これまで様々な取組を展開してきました。特に今年は「2020 ビジョン」の最終年にも当たり、総会の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、来年の 8 月を目処に延期しました。

こうした中にあっても、多くの人々にあらためて被爆者の核兵器廃絶への思いを共有していただくため、被爆から 75 年となる今夏、“No more Hiroshima! No more Nagasaki!”（ノーモア・ヒロシマ！ ノーモア・ナガサキ！）をコアコンセプトとして様々な取組を行っています。広島・長崎の被爆者や平和首長会議役員都市、国連、各国政府、NGO の代表から寄せられたビデオメッセージを配信しているほか、国内外の青少年を対象としたオンラインセミナーを開催する予定です。そして、平和首長会議の加盟都市にこのコンセプトの下で取組を進めるよう呼び掛けることにより、世界中の市民に核兵器廃絶への思いを共有してもらえるよう、共感の輪を広げていきたいと考えています。

愛知県の高校生が折った折鶴をドイツ・ハノーバー市の副市長に手渡す松井会長（2019 年 11 月 11 日）

このほかにも、子どもたちから寄せてもらった平和のメッセージを 8 月 6 日に平和記念公園内に展示し、平和のバトンを未来へ繋（つな）ぐ取組など、若い世代の平和意識の高揚を図る事業を展開します。

最後に、本財団では、在住外国人を含む参加市民に楽しみながら外国文化に触れていただき、国際交流・協力、多文化共生に対する理解を深める機会を提供する「国際フェスタ」の開催や、姉妹・友好都市との交流、日本人と外国人が交流するための場所と情報を提供する国際交流ラウンジの運営などを通して、国際交流の一層の促進と市民の国際意識の高揚を図っています。

また、多文化共生のまちづくりの推進のため、外国人市民の生活相談コーナーを運営するほか、日本語能力向上支援として日本語講座の開設や日本の習慣文化を理解してもらう取組を進めていきます。

（総 務 課）

NPT（核兵器不拡散条約）発効50周年に寄せて

平和首長会議が共同アピールを発出

米国・ニューヨーク市の国連本部で今年4月から5月にかけて開催される予定だった2020年NPT再検討会議が、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により延期されました。これを受けて平和首長会議（会長松井一實（まついかずみ）広島市長）は、当初予定されていた会議の初日に当たる4月27日、NPTの全ての締約国や国連関係者に向け、延期後の再検討会議で最終的に合意文書がまとめられるよう、会議までの時間を有効に活用し、核軍縮の進展に向けた誠実かつ建設的な対話を積み重ねることを求める共同アピールを発出しました。

「市民社会の共同声明」に賛同を表明

また、世界のNGO等が、各国政府に対して核軍縮の進展を求める「市民社会の共同声明」を作成し、同条約の無期限延長を決めた日から25周年を迎えた今年5月11日に、締約国へ送付しました。平和首長会議はこの共同声明の主旨に賛同し、賛同団体として名を連ねました。

（平和首長会議・2020ビジョン推進課）

平和記念資料館本館常設展示資料を入替え

本館常設展示について、展示による劣化を防ぎ、長期的に保存していくという観点から、随時入替え作業を行っています。6月1日から「黒い雨」、「救護所の惨状」、「放射線による被害」のコーナーの布類の資料4点を入替えました。このうち、「救護所の惨状」のコーナーでは、小川節子（おがわせつこ）さん（当時21歳）が被爆時に着用していた「モンペの上衣」と「ワンピース」を展示しています。節子さんは顔と背中に火傷を負い、臨時の野戦病院が開設された似島（にのしま）に収容されました。母親のリツさんが懸命に看病しましたが、8月11日に亡くなりました。リツさんはこれらの服を「リツのかん（棺）に入れて」と書いた包みに入れ、大切にしていました。

小川節子さんが被爆時に着ていたワンピース（寄贈／小川リツさん）

今後、これらのコーナーの展示は1年ごとに定期的に入れ替えていきます。

（平和記念資料館　学芸課）

「新着資料展」を開催しています

展示場所　平和記念資料館　東館地下1階　特別展示室
展示期間　令和2年6月～令和3年3月（予定）
展示資料　平成30年度に寄贈された被爆資料等132点

平和記念資料館では、原爆被害の実相を伝えるための貴重な資料として、被爆者やその遺族が保存しておられる被爆資料の収集・保管に努めています。この「新着資料展」では、平成30年度（2018年度）に新たに70人の方から寄贈された613点の一部を展示しています。

8歳の少年が被爆時に着用していた服
原爆で母や兄妹を亡くした少年は、平成28年に亡くなるまで原爆の話は殆（ほとん）どしませんでした。
寄贈／上原允子（うえはらちかこ）さん

戦後75年が経過し、被爆資料や資料にまつわる詳細な情報の収集が次第に困難になっています。資料館では、核兵器廃絶のため、原爆がもたらした様々な被害を将来にわたり伝えていきます。被爆資料の当館への寄贈について、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

【被爆資料寄贈に関するお問い合わせ】
平和記念資料館　学芸課
TEL（082）241－4004

資料展「この世界の（さらにいくつもの）片隅に　広島のすずさん展」を開催

この資料展は、6月1日から10月末（予定）まで当館東館地下1階で開催しています。

広島・呉（くれ）を舞台にしたアニメーション映画「この世界の片隅に」は、平成28年（2016年）11月に公開され、210万人以上を魅了しました。そして、新たに約30分・250カットを超えるエピソードを加えた新作「この世界の（さらにいくつもの）片隅に」が昨年12月に公開されました。今回の資料展は、この映画の主人公・すずさんの広島での場面、特に中島地区（現在の平和記念公園）を中心に、かつてのにぎやかな街並や被爆後の惨状を描いた展示パネル19枚で構成しています。内容は複製原画34点と下絵22点に関連資料を加えたもの

で、大部分の説明文は片渕須直監督が書いてくださったものです。監督のこだわりが随所に見られます。

「原爆の爆心からわずか170mの距離にあった大正屋呉服店の建物は、平和記念公園レストハウスとして現存する。その姿を画面に収めようとすると、手前に建つ大津屋モスリン堂も描くことになるのだが、この店の店構えを捉えた写真は手に入らなかった。聴き取りを繰り返して再現していかなければならなかった。」（片渕）

見ごたえがあると好評をいただいています。

習作を10回以上重ねた結果描かれた大津屋でしたが、前作発表後に確認された資料に基づいて、新作では描き直されました。資料展でその過程をご覧いただけます。

また、新型コロナウイルスの影響を受けて実施している対策にご協力いただいている来館者への感謝の意味を込めて、展示会場に立っている「すずさんの看板（呉観光協会所蔵）」もマスク（昭和のくらし博物館提供）をしています。

（平和記念資料館　学芸課）

被爆体験記

生死の運命

本財団被爆体験証言者
山瀬　潤子

原爆当日の様相

1945年当時、家族は祖母、父母、中学2年生の長兄と国民学校6年生の次兄、国民学校3年生で8歳の私、妹4歳、弟2歳の8人家族でした。8月6日8時15分、台所に居て、窓ガラスに橙色の裸電球の光を見た次の瞬間、凄まじい轟音と共に隣の和室に爆弾が落ちました。いや、落ちたと思ったのです。

原爆の風圧で天井は垂れ下がり、粉塵は舞い、障子、襖、家具が吹っ飛びました。本能的に母と抱き合って床に伏せました。背中にガラスの破片が散らばりました。急いで家（段原中町）の前のバス道路に出ますと、近所の人達が口ぐちに「家に爆弾が落ちた」と叫んで、おろおろしていました。隣の薬屋のおばさんが幼な子を抱いて、道路にしゃがみ込み、腕から血を吹き出しながら「助けて下さい、助けて下さい」と叫んでいました。母が身に着けていた日本手拭いで腕を縛り上げて止血の応急処置をしてあげました。おばさんの4歳の男の子は片目にガラスが刺さり失明しました。見渡す限り建物は破壊され、倒壊しています。寸前まで快晴だった空が原子雲で蔽われ、地上の粉塵が舞い上がり、一瞬にして夕暮れのように暗くなったのです。それは不気味な恐怖の世界でした。家の前を屋根のない三輪トラックが通りました。荷台に血と埃にまみれ、衣類を辛うじて纏っている全裸に近い人が動かないで横たわっています。路上の障害物を乗り越えてトラックがバウンドすると、荷台の負傷者も一緒にバウンドしていました。

市民が描いた原爆の絵「比治山へ避難した人々のようす」（作者　松村智恵子さん）

比治山の絶壁を登るような山道の、狭くて柵のない坂を、二人が肩を組んだり、棒切れを頼りに体を支えたり、お尻を地につけて座ったままで進んだり、皆、髪ぼうぼう、破れ汚れた服の負傷者が降りて来る行列が続きました。国民服にゲートル（脚絆）姿の男の人がメガホンで「皆さん気違いが横行していますから気を付けて下さい」と触れ歩いていました。一瞬にして原爆と言う地獄の修羅場をくぐり抜けて、精神状態が正常ではなくなった人が現れても不思議ではありません。

父の火傷・ケロイド

夕方近く父が左半身に大火傷を負って帰って来ました。数日後、家の傷みがひどくて住めないので、爆心地より4.5km離れた淵崎（現在の仁保一丁目）へ疎開しました。父は終日寝て、首筋、二の腕から手首、手指の火傷の療養をしました。腕の血膿みの臭いをハエが嗅ぎつけてブーンと音をたてて飛んで来ます。化膿した火傷の腕にハエが卵を産んで、うじ虫が湧いたら大変です。家族が交代でうちわでハエを追い払いました。父の火傷の細胞は異常に増殖して皮膚が盛り上がり、関節を跨いでケロイドとなって残りました。腕の関節は「く」の字に曲がり、小指、薬指も蟹の足のように曲がり、一生、真っ直ぐ延ばすことは出来なくなりました。

一家８人無事

長兄は県立一中2年生でした。原爆が落とされた日は月曜日でしたが、急きょ休日になった日でした。長兄の上級生、下級生353人の優秀な生徒が原爆で亡くなりました。父は出勤途中で爆心地より1.8km離れた電停に立っていました。混んでいた電車をひとつ見送ったことで助かったのです。母は長兄と田舎へ買出しに行きたかったのですが、長兄の気が進まず取りやめていました。バスは爆心地近くを通っていたので一

命を取り留めました。祖母は縁故疎開、次兄は集団疎開をしていて無事でした。私は補習授業に行く前で、家におり、妹と弟も家にいて無事でした。

ヒロシマから世界に

核兵器を開発、所有している国。開発、所有していなくても核戦争の抑止力になると保有を認め許している国があります。核兵器のない平和な世界になることを切望します。私は一人でも多くの人に自分が経験した原爆を語り継ぎたいと思います。人と人が繋(つな)がって平和運動を拡げれば各国の指導者をも動かす力になると言っても過言ではないでしょう。ヒロシマからの発信、行動には重みがあるのです。

プロフィール

〔やませ　じゅんこ〕

国民学校3年生で8歳の時、広島駅前の家が建物強制疎開にあい、爆心地より2.2km離れた比治山のふもとの段原中町へ引っ越して被爆。
広島信用金庫を1966年に退職。のち宅地建物取引士、行政書士、医療法人・社会福祉法人理事を経て2015年引退。

観光事業従事者研修会「ヒロシマ・ガイド」を開催

本財団は、2月27日に研修会「ヒロシマ・ガイド」を開催しました。

この研修会は、広島への来訪者に被爆の実相や核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を願う「ヒロシマの心」を正しく伝えていただくため、日頃から広島平和記念資料館や平和記念公園を案内している観光事業従事者の方を対象として平成13年度（2001年度）から開催しています。

今回は33人が参加し、ヒロシマ ピース ボランティアによる資料館内の展示や公園の慰霊碑等の解説を受けた後、飯田國彦(いいだくにひこ)さんの被爆体験講話を聴講しました。

飯田國彦さんによる被爆体験講話の様子

参加者からは「伝えることの大切さを改めて感じた」などの感想が寄せられました。

（平和記念資料館　啓発課）

ウェブ会議システムによる海外への被爆体験証言

～コロナ禍でも／だからこそ、被爆の実相を世界に～

平和記念資料館では、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により各国において国をまたぐ移動が制限される中でも、ヒロシマで起きたことを広く国外の人々に伝え、核兵器廃絶に向けての国際世論を醸成するため、インターネット回線を利用して被爆体験講話を行う「ウェブ会議システムによる海外への被爆体験証言」に取り組んでいます。

欧米各国がロックダウン（都市封鎖）されたため、予定されていた現地の集会がかなわなくなり中止となった講話もありましたが、4月から6月にかけて、核超大国アメリカの参加者に対して4回実施することができました。

小倉桂子(おぐらけいこ)さんの講話を子供と聴講したアメリカ西海岸オレゴン州の女性は、「小倉さんの証言をきっかけに、子供たちと戦争や平和、そして核兵器について話し始めることができる」と話されると共に、コロナ禍で外出できない状況下でもオンラインで広島に住む小倉さんとつながれたことへの感謝を述べられていました。

アメリカ・オレゴン州の複数の家庭とつながり講話する小倉桂子さん

平成22年（2010年）から実施している本事業ですが、今年、初めての試みもありました。平素は講話を行う方に来館していただき、会議室のインターネット回線と機材を用いて講話を行っていますが、外出自粛要請により担当の被爆体験証言者が来館できなくなったため、急きょ、自宅でウェブ会議システムを利用できる被爆体験伝承者が講話を行いました。ハワイの非営利団体「パシフィック・ヒストリック・パークス（PHP）」が開催したオンライン講座で、瀬越睦彦(せこしむつひこ)さん（故人）の被爆体験を受け継いだ被爆体験伝承者の沖本直子(おきもとなおこ)さんが、全米からの参加者約100人に講話を行いました。

当館は今後もインターネット技術等を活用し、「ウィズコロナ・アフターコロナの時代」においても引き続き国内外へ被爆の実相を伝えていきます。

（平和記念資料館　啓発課）

被爆体験証言者及び被爆体験伝承者の委嘱

今年度、本財団は被爆体験証言者41人及び被爆体験伝承者150人を委嘱しました。

被爆体験証言者は、修学旅行や平和学習で広島を訪れる団体などに対し、自身の被爆体験や被爆の実相などを伝える被爆者の方々です。

また、被爆体験伝承者は、証言者の被爆体験や平和への思いを受け継ぎ、将来にわたり伝えていく方々で、3年間の研修を修了し、今年度19人の伝承者が新たに活動を始めました。

（平和記念資料館　啓発課）

ヒロシマ ピース ボランティアがオンライン勉強会

～解説のスキルを磨き、今後の可能性を考える～

平和記念資料館には235人のヒロシマ ピース ボランティアが在籍しており、館内の展示解説や平和記念公園及び周辺の慰霊碑等の解説を通じて、広島を訪れる修学旅行生をはじめ来館者の方々の平和学習を支援し、被爆体験継承の推進に取り組んでいます。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、当館が臨時休館に入った2月29日から活動を休止していました。活動の場を失い、さらには再開の見通しが立たずボランティア同士で顔を合わせることもできない状況が続く中、オンラインを活用して交流できるのでは、という声がボランティアの間からあがりました。

そこで、4月から職員を交えてオンラインミーティングが始まりました。最初は慣れないウェブ会議システムの操作に戸惑う人も多く、接続するだけで精一杯の状況が続きましたが、回数を重ねるうちに、今年デビューする予定だった新人向けにベテランが碑めぐり解説を行う「オンライン碑めぐり」や、被爆体験伝承者と共同で「オンライン伝承講話」といった勉強会を毎週のように実施するまでになり、活動できない期間を利用してボランティア同士で学び合うことができました。

6月中旬には、先輩の多賀俊介（たがしゅんすけ）さんが新人約20人を対象に「韓国人原爆犠牲者慰霊碑」の解説を行い、碑の建立の経緯や生徒を案内する際のポイント等についてお話しされました。また、「原爆の子の像」の解説を行った西村宏子（にしむらひろこ）さんは、「この新人さんたちと仲間となり一緒に早く活動をしたい。そしてもっと学ばなければとの思いを強くした」と印象を話されました。

新人ボランティア向けにオンラインで碑めぐり解説を行う多賀俊介さん

こうした活動を通じて、解説のスキルや知識を磨くことができただけでなく、仲間の顔を見られてよかった、という声が寄せられています。また、コロナ禍で移動が制限され広島に来ることができない人たち向けに、「実際にヒロシマに行ってみたい」と思ってもらえるような取組をオンラインで実施できないか検討しています。

（平和記念資料館　啓発課）

海外からの来訪者が発信するメッセージ

～平和記念資料館芳名録より抜粋、日本語に訳したもの（仮訳）を掲載しています～

サンジェイ・クマール・ヴァルマ／駐日インド特命全権大使

広島平和記念資料館を訪れることで、1945年8月、広島の人々の上に落とされた原子爆弾によりもたらされた恐怖を、誰もが実感することができます。文明同士のつながりや人道主義的なきずなを構築し、インド国民は日本の方々と共にあります。インド議会は核による大虐殺の犠牲となった人々を毎年追悼し、世界の平和と秩序を祈ります。

（2019年4月19日）

サガラ・ガジェンドラ・ラトナヤケ／スリランカ民主社会主義共和国　港湾・海運・南部開発大臣

「憎悪は憎悪によって止むことはなく、慈愛によって止む」（『法句経』）

この一節は、1951年のサンフランシスコ講和会議において、セイロンを代表して出席した当時の財務大臣であるジャヤワルダナ元大統領により繰り返し引用されました。彼は日本の助けとなるように発言したのです。それ以来、スリランカ国民と政府は、かけがえのない関係を日本と育んできました。平和な関係を築き、助け合ってきたのです。日本のみなさんのスリランカへの支援を感謝しています。広島平和記念資料館への訪問は、胸を打つものになりました。なぜ平和が限りなく重要なのか、そのことを体現する場所だからです。

（2019年4月19日）

ゴルダン・ヤンドロコビッチ／クロアチア共和国議会議長

今日平和記念公園にたたずみ、広島と長崎で原爆の犠牲になった全ての方々、そして言語に絶するこの人類の惨事を生き抜いた人々へ、敬意を表します。

このような悲劇が再び起こることがないよう、我々は全力で、あらゆる努力をしなければなりません。我々が世界恒久平和を実現できるとすれば、相互理解、寛容さ、希望、知

恵、そして思いやる心を育てることなしにはあり得ません。

日本の皆様への尊敬の念を込めて。

（2019年6月6日）

フェルナンド・アリアス／化学兵器禁止機関（OPCW）事務局長

広島の皆様が被爆により過去、そして現在も苦しんでおられる痛みに対し、心から思いをはせたいと思います。

また、貴市が復興を遂げ、あのような悲劇が二度と繰り返されないよう取り組んでいらっしゃることに対し、深く敬意を表します。

貴市の平和のメッセージを共有し、貴市で起こった出来事を忘れず、大量破壊兵器のない世界を目指し貴市と同じ熱意を持って尽力していくことは、国際社会の責務です。

（2019年6月18日）

ドナルド・トゥスク／欧州理事会議長

ヒロシマの惨劇を決して無駄にしてはいけません。これは我々共通の責任です。欧州は記憶し続けます。いつまでも。

（2019年6月26日）

セバスティアン・ピニェラ／チリ共和国大統領

この世が核兵器のない世界になりますように。

ヒロシマとナガサキの犠牲者へ敬意を払うために、これ以上の方法はないだろう。

（2019年6月29日）

被爆体験記などを多言語に翻訳して公開

原爆死没者追悼平和祈念館を訪れる方々のうち、外国人が占める割合は年々高くなっており、現在ではおよそ4割になっています。被爆体験記を母国語で読むことによって、さまざまな国や地域の方々に原爆被害の実相について理解を一層深めていただけるよう、当館では平成21年度（2009年度）から被爆体験記の多言語化に取り組んでいます。

館内の各コーナーの検索装置は日本語、英語、中国語、韓国・朝鮮語の4言語で閲覧できるほか、体験記閲覧室の「外国語コーナー」では24の言語で被爆体験記を紹介しています。さらに、被爆者証言ビデオの外国語への吹き替えや字幕の掲載も行っており、これらは検索装置で視聴することができます。

また、当館ホームページ内の「平和情報ネットワーク」でも、被爆体験記や証言ビデオを多言語化し、公開しています。（URL：https://www.global-peace.go.jp/）

【多言語化している28言語】

英語、中国語、韓国・朝鮮語、アラビア語、イタリア語、インドネシア語、ウルドゥー語、オランダ語、ギリシャ語、クロアチア語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、タイ語、ドイツ語、ノルウェー語、ハンガリー語、ヒンディー語、フィリピノ語、フィンランド語、フランス語、ベトナム語、ヘブライ語、ポーランド語、ポルトガル語、マレー語、モンテネグロ語、ロシア語

（原爆死没者追悼平和祈念館）

今年度のひろしま奨学金奨学生30人が決定

本財団では、市内の大学または大学院に在籍する私費留学生に対し、「ひろしま奨学金」として毎月3万円を1年間支給しています。今年も6月下旬に30人の奨学生を決定しました。

この「ひろしま奨学金」制度は、昭和63年度（1988年度）から始まり平成31年度（2019年度）までに953人に支給しました。広島市からの出捐金（しゅつえんきん）及び市民、団体からの寄附金で構成される「ひろしま留学生基金」により運営していますが、昨今の金利低下により、財源は大変厳しい状態となっています。同基金への皆様の温かいご支援をお待ちしております。

奨学生を追加募集

今年度については、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、広島市内の各大学において休校措置などがとられたため、当初の「ひろしま奨学金」への申請ができなかった留学生がいたことや、アルバイトの継続が難しく経済的に困窮している留学生が増えていること、留学生の本国においても経済的に困窮している家庭があること等の声が寄せられました。このため、7月31日を締め切りとして奨学生30人の追加募集（第2次募集）を行っています。

【平成31年度にひろしま留学生基金へご寄附いただいたみなさま（敬称略・順不同）】

国際ソロプチミスト広島（32年継続）、一般財団法人多山報恩会（26年継続）、ぱれっと倶楽部（17年継続）、公益社団法人日本産業退職者協会広島支部（15年継続）、橋本真知子氏（8年継続）、匿名1人

【基金へのご寄附に関するお問い合わせ】

国際交流・協力課

TEL（082）242－8879

広島市外国人市民の生活相談コーナー
―ベトナム語の相談窓口が週5日に―

外国人市民の生活相談コーナーでは、今年４月から、ベトナム語の相談窓口を週２日から週５日に増やしました。相談日の拡充により、月曜日から金曜日の毎日、中国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語に対応できる相談員が行政機関への各種届出や困りごとの相談に応じます。

【連絡先】
TEL（082）241 － 5010
E-mail　soudan@pcf.city.hiroshima.jp

【場所】
広島国際会議場１階　国際交流ラウンジ内

【時間】
月曜日～金曜日、午前９時～午後４時

【対応言語】
中国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語

【休室日】
土曜日、日曜日、祝日、８月６日、12月29日～１月３日

外国人市民の日本語能力向上を支援

地域日本語教室が抱える課題の一つであるボランティア不足を解消するため、ボランティア養成講座を開催しました。

① 日本語ボランティア養成講座（全 10 回）

回／開催日程	内容
第１、２、３回／令和元年８月20日(火)	地域の外国人市民について、どのような人がどのように日本語を学習しているかを学び、外国人市民から日本語学習体験談を聞きました。また、日本語ボランティアを始めるにあたって必要な心得や、やさしい日本語を使ったコミュニケーションを学びました。
第４回／令和元年８月27日(火)	外国語と日本語の違いや日本語で日本語を教えることを理解し、日本語文法の基礎について学びました。
第５回／令和元年９月３日(火)	日本語文法の基礎や、日本語の教え方について例文を用いながら学びました。
第６回／令和元年９月10日(火)	
第７回／令和元年９月17日(火)	
第８、９回／令和元年９月24日(火)	広島市内の日本語教室の紹介と交流会を行い、地域日本語教室のいろいろな活動を学びながら意見交換しました。
第10回／令和２年１月28日(火)	最終回はフォローアップ研修として、ボランティア活動に関する悩みや疑問について意見交換しました。

延べ358人が受講し、熱心に日本語ボランティア活動の基礎知識や技術習得に励み、活動への関心を高めていました。

日本語ボランティア養成講座の様子

②令和２年度日本語ボランティア入門講座

今年度は、少人数で全５回の講座を秋に２回開催します。対象者は主にこれからボランティア活動を始めようと考えている人や活動を始めて間もない人です。募集内容は広島市広報紙「ひろしま市民と市政」に掲載します。多数の参加をお待ちしています。

（国際交流・協力課）

今年度から「日本語教育コーディネーター」を配置

慣れない日本で暮らす外国人市民に、生活に必要な日本語能力を身に付け、コミュニティの一員として充実した暮らしを送ってもらうため、日本語教育の重要性が高まっています。

こうしたことから、日本語教育の推進に取り組む「日本語教育コーディネーター」を今年５月から国際交流・協力課に配置しました。配置場所には「広島市にほんごデスク」のロゴを掲げ、日本語教育コーディネーターの橋本優香（はしもとゆうか）さんが、日本語教室における教育プログラムの企画や、地域日本語教室への助言・支援、日本語教育に関わる大学や専門学校等との連携・協力を行っています。

今年秋には新たに日本語入門教室を開催するほか、地域住民を対象に「やさしい日本語」講座や、市民が一緒に楽しく交流できるイベントも実施していく予定です。フェイスブック（https://www.facebook.com/hiroshima.nihongo/）で情報発信しています。

ロゴを掲げた席で仕事をする
橋本優香さん

日本語教育コーディネーター　橋本優香 プロフィール

日本語教育学専攻修了。ニュージーランド、コスタリカの大学で教壇にたち、帰国後は（公財）ひろしま国際センター専任講師、中国帰国者支援・交流センター教務主任等を経て、今春から現職。

（国際交流・協力課）